

Language Business Japan 2017

海外から日本を訪れるインバウンドのお客様が飛躍的に増えている。

昨年2400万人を超えたインバウンドの旅行者が、今年は2800万人を超えるとされている。そして政府・官公庁の目標は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催年には4000万人、さらに2030年には6000万人とのこと。もっとも海外からの旅行者が世界一のフランスでは、すでに8260万人なので、観光資産が豊富な日本

としては、あながち不可能な数字ではないと思われる。問題は宿泊施設や交通機関などの受け入れ態勢であろうが、やはり言葉の問題も大きな問題である。

東タク協もTSTIE(英語による東京観光タクシー)乗務員を2020年までに300人養成する目標を掲げており、またスマホアプリの多言語化など、インバウンド客の増加に備えている。

私もTSTIE乗務員になるべく英語の学習を進めているが、たまたま12月13、14の両日、都内池袋の「サンシャインシティ文化会館ビル」で、「グローバルビジネス支援EXPO、インバウンド言語支援EXPO」と銘打

五輪・パラリンピック開催までに、観光英語対応ドライバー300人の育成を目指します。

TSTIE (タスティエ) ドライバー認定制度

平成27年より「TSTIEドライバー」の認定制度を設け、英語による観光案内が可能なドライバーの育成を進めています。
平成28年2月時点で15人のTSTIEドライバーが認定されていますが、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに300人のTSTIEドライバー育成を目標としており、今後一層の増加が見込まれる海外からのお客様に対するサービスの向上に努めています。

TSTIEドライバー認定の条件

(Step1) ●東京シティガイド認定に合格していること。
●ユニバーサルドライバー研修を修了していること。
(Step2) ●東京観光タクシードライバー認定研修を修了していること。

(Step3) ●TOEIC600点程度のスキルを持っていること。
(Step4) ●観光英語対応ドライバー認定プログラムに合格すること。
(20時間の研修+スピーチテスト)

TSTIEドライバー 目標人数推移

年	人数
2016年	100
2017年	150
2018年	200
2019年	250
2020年	300

った「Language Business Japan 2017」が開かれたので参加してみた。セミナーと展示ブースの併設の催しだったが、現在における最先端の音声翻訳、機械翻訳の状況を知ることができた。

清野吉光氏のコラム 第108回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年 清水市の日の丸交通入社。1980年 静岡市内の事務機器センターに入社。1982年 システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年 代表取締役社長就任。2000年 ㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年 タクシーアシスト代表取締役社長に新任。2016年3月 システムオリジン社長退任。チームネクスト事務局長。

必要とされる 多言語対応



アメーバブログを始めました!
<http://ameblo.jp/ykiyono800>

さあ、『VoiceTra』で世界中の人と話しましょう!

無料アプリ

多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」

初日、朝一番のセミナーでは、「言葉の壁」をなくすための研究開発の最前線というテーマで、総務省国際戦略局技術政策課の増子課長補佐と情報通信研究機構(NICT)先進的音声翻訳研究開発推進センターの隅田副センター長からプレゼンテーションがあった。

ひとつは2014年4月に策定された「グローバルコミュニケーション計画」(http://www.soumu.go.jp/main_content/000285578.pdf)で、「世界の『言葉の壁』を無くしグローバルで自由な交流を実現するために、音声翻訳技術の多言語化・他分野化を推進し、2020年までに社会実装を目指す」とのこと。

もうひとつは、その具体的な方策のひとつとして「VoiceTra」という多言語音声翻訳アプリの無償提供である。このアプリは、昨年12月に中国の上海に一人で旅した時にスマートフォンにインストールして、現地では随分と助かった。日本語で話した内容(音声入力)を世界31言語に翻訳し、16言語については音声出力してくれる! もちろん文字入力、文字出力も可能である。長文の文章は無理だが、通常の会話で言葉を交わす程度の文章は、音声でも文章でも充分意思が通ずる、優れたものである。

NICTが長年かけて開発してきたこのシステムは、最近ニューラルネットワーク

機械翻訳の現段階

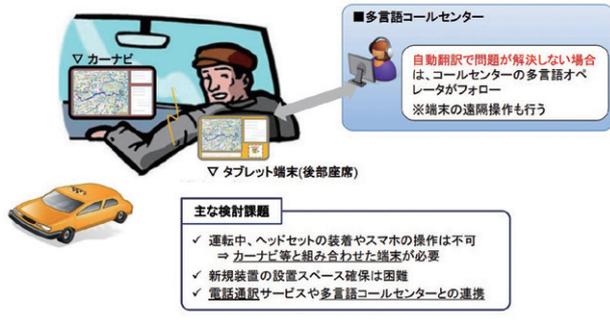
ク(深層学習)を活用した機械翻訳の実用技術を取り入れ、現時点では日本語と英語との間のみのようだが、その翻訳精度は格段の進歩があったとのこと。

コンピュータによる機械翻訳の歴史は、1970年代の後半から始まっているが、当初は文法や単語の意味などルールを単純に記憶させ、翻訳を試みていたに過ぎず、その精度は非常に悪く、使

将来の社会実装イメージ

タクシー

車載ディスプレイで会話サポート



主な検討課題

- ✓ 運転中、ヘッドセットの装着やスマホの操作は不可
→ カーナビ等と組み合わせた端末が必要
- ✓ 新規装置の設置スペース確保は困難
- ✓ 電話通話サービスや多言語コールセンターとの連携

物にならなかった。しかし、90年代以降は統計翻訳という手法がとられるようになった。統計翻訳とは「大量の対訳データを解析し、その統計結果から適した訳し方を割り出す仕組み」であり、ルールベースの翻訳よりはかなりの精度の向上があったが、しかし大量の対訳データの蓄積を必要とし、分野によってはほとんどない翻訳結果になることが多いらしい。そして現在では、Google翻訳が昨年の6月から採用されたニューラルネットワークが、機械翻訳の世界を飛躍的に進化させている。ヘンテコな翻訳が、まま(かなり?)あった機械翻訳が「自然な文の流れを分析して翻訳できるようにになった」とのことである。人間の脳に近い仕組みで翻訳するようにになったとのことだが、何故そうなのかは、私の頭では理解できそうもない。とにかく、機械翻訳の世界はいま激変の時代であり、スーパーコン

ピュータやら量子コンピュータ(Googleはすでに導入済)やらの飛躍的な進歩により大量のビッグデータを処理し、AI(人工知能)の精度、スピードも上がっている。機械翻訳の世界も侮れない! 実際Googleの翻訳ソフトを使ってみると、1000文字ほどの私のブログをほぼ瞬時に英文に訳してしまう! 残念ながら総務省傘下のNICTの「みんなの翻訳」ソフトとの翻訳スピードの違いは圧倒的である。翻訳の質については、私には評価能力が無いのでなんとも言えないが、日の丸翻訳システムの一層の踏ん張りが必要だと感じるところだ!

英語学習は無意味?

ところで、コンピュータが瞬時に同時通訳の様に音声翻訳までしてくれるとしたら、今頃TSTIEを目指して、ノコノコと英語を勉強している私の立場はどうなる!?

もちろん、今すぐにそういう世界が実現する訳ではないが、果たして他の国の言語を勉強することの必要性は

無くなるのだろうか?

ある面ではイエスであり、ある面ではノーとも言える。多分コミュニケーションの質と深さをどこまで目指すのかによるのだと思う。

単純に買い物をしたり、交通機関を利用したり、定型化されたビジネス情報の交換であれば、かなりの部分がこの機械翻訳の世界でいけるのではないかと思う。

しかし、人間の持つ感情や精神世界のことになると、非言語的なコミュニケーションも含め機械翻訳では及び得ない領域があると思われる。例えば文学書の翻訳は機械翻訳では難しいと言われている(もつとも最近では、コンピュータが小説を書くという事例もあると言わが)。人間の持つ「感情の鮮度」を機械翻訳で瞬時に伝えるのはやはり至難の業だと思う。

結果として、自分がそういう深い領域自体のコミュニケーションができるかどうかは別として、引き続き、少しずつ英語の学習を継続して行こうと思う。

(2017年12月20日記)



↑ サイトへGO!
運転の仕事.jp

10:00 から 20:00 お問い合わせ受付中 ▶▶ **03-5281-3088**

こんにちは! 運転業界の**転職のプロ**による求人サイトです。

運転のおしごと

当社での面談・ご紹介からの**入職率 87%**! 入職からの**定着率 100%**!! (2017年12月現在)

新サイト・スタートにつき求人広告掲載無料キャンペーン中!!

2018
1/5 (金)
▼
1/31 (水)
キャンペーン中

